

## 平成31年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 生徒の主体的な教育活動の実践を通して、次代をリードし地域社会を支える人材を育成し、地域に根ざし、地域とともに歩む学校をつくる。  
育む四つ葉のクローバー（4つのチカラ）
- (1)【確かな学力】基本的な学習習慣を身につけ、主体的な学びを通して社会につながる学力を養い、希望の進路を実現する力
  - (2)【コミュニケーション力】豊かな人権感覚を持って違いを豊かさに捉える感性を育み、人とつながり、ともに高めあう仲間をつくる力
  - (3)【課題解決力】「答えのない問い」に真摯に向き合い、思考力・判断力・実践力を養い、未来を創造する力
  - (4)【地域貢献力】地域との連携や交流を通して、地域とつながり、地域の「人づくり・町づくり」に貢献する力

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

- (1)【授業力向上】新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざし、不断の授業改善に取り組む。
  - ア 授業力向上PTが主導し、教科・学年が協力して公開授業及び研究協議、相互授業見学、授業アンケートを活用した授業改善に組織的に取り組む。「授業アンケート」による5つの授業評価軸平均（平成30年度3.19）を毎年引き上げ、2021年度には3.21にする。
  - イ 「主体的・対話的で深い学び」の授業やICT機器等を用いた授業を展開することにより、教員の授業力及び生徒の授業満足度の向上をはかる。特に「why(なぜ学ぶか)」「so what(だから何なのか)」等を考えることが学びの中心になるような授業づくりを重点的に進める。生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」に対する満足度（平成30年度70.6%）を2021年度には76%にする。生徒向け学校教育自己診断における「ICT機器が授業等で活用されている」に対する満足度（平成30年度82%）を維持する。
- (2)【進路実現の支援】基礎学力の定着を組織的に図り、生徒の希望する進路の幅を広げ、その実現を支援する。
  - ア 学力向上PTが主導し、教科・学年の協働による教育産業の学習支援プログラムを有効に活用し、生徒個別の学習課題の克服と学習習慣の確立を図る。生徒向け学校教育自己診断における「家庭での学習時間を確保している」に対する肯定率（平成30年度44.3%）を2021年度には50%にする。
  - イ 放課後や長期休業中の組織的な補習・講習体制の確立に取り組む。また、校内で自習できるスペースの整備・拡充を図る。生徒向け学校教育自己診断における「補習・講習を十分行っている」に対する満足度（平成30年度76.4%）を維持する。
  - ウ 進路指導部と学年・教科が協働してクラス担任の進路指導力の向上に努め、生徒に寄り添い能力を引き出す指導を行い、進路希望実現を図る。生徒向け学校教育自己診断における進路指導満足度（平成30年度75.9%）を2021年度には82%にする。
- (3)【専門コース制の充実】2つの専門コースにおける3年間を通じた学習プログラムを構築・遂行し、希望の進路実現を図る。
  - 人文探究専門コース生の難関私立大学（関西8私大等）現役合格者数20人を目標とする。
  - 平成31年度入学生の専門コース選択者について、子ども保育専門コース15名、人文探究専門コース55名の確保を目標とする。

## 2 コミュニケーション力の育成

- (1)【生徒指導の充実】基本的生活習慣の改善・定着を図るとともに、マナーや規範意識を醸成するなど社会性の向上を図る。
  - ア 挨拶、身だしなみの改善・定着、SNS使用上のモラル向上、遅刻指導の強化、安全通学の啓発を全教職員で取り組む。生徒向け学校教育自己診断における「基本的習慣の確立に力を入れている」に対する肯定率（平成30年度65%）を2021年度には68%にする。年間遅刻者数を2021年度には1600未満にする。
- (2)【ともに高めあう集団育成】特別活動や生徒会活動を通じて生徒の主体的な行動を促し、生徒の自主性や社会性を醸成する。
  - ア 部活動や各種行事を通じて、周囲との協調性を養い、課題に向かってともに越える力を醸成する。部活動加入率（平成30年度52.3%）を2021年度には55%にする。生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度（平成30年度65.3%）を2021年度には70%にする。
- (3)【人権尊重の教育の充実】一人ひとりを大切に、だれもが安心して安全に学べる学校をつくる。
  - ア 心の教育を充実させ、生命と人権を尊重し、多様性を尊重し他者を思いやる豊かな人間性を育む。生徒向け学校教育自己診断における「学校の人権意識育成姿勢」に対する肯定率（平成30年度72.1%）を2021年度には74%にする。

## 3 課題解決力の育成

- (1)【主体的・対話的で深い学びの実践】授業や学校行事等において、生徒の主体的・対話的で深い学びの機会を持ち、思考力・判断力・表現力を育成する。
  - ア 1年次の「総合的な探究の時間」では、調べ学習に終わることなく自分の考えを発表する機会を積極的に設定する。また、3か年の実施計画を作成する。生徒向け学校教育自己診断における「自分の考えをまとめて発表する」（平成30年度45.5%）を2021年度には50%にする。
- (2)【部活動の充実】部活動を通して自己の課題を克服し、挑戦し続ける力を育成する。共通の目標に向かい努力し続けるチームをつくる力を醸成する。

## 4 地域貢献力の育成

- (1)情報発信PTが主導し、教科・学年・分掌・部活動との協働による地域との交流や社会資源を活用した教育活動を展開する。
  - ア こども保育専門コース生徒による保育所、幼稚園への出前授業や交流。
  - イ 人文探究専門コース、一般系生徒による小・中学生への出前授業等の実施。生徒による出前授業や地域交流の範囲を広げ、参加生徒が達成感を実感し、自己肯定感が高まるような活動内容の充実を図る。
- (2)学校教育活動全体を通して組織的・計画的に学校保健活動を展開する中で、生徒の健康教育の推進や、防災意識の啓発、清掃活動への徹底を促す。
  - 生徒向け学校教育自己診断における「命を大切にすることを学ぶ」に対する肯定率（平成30年度77.9%）を2021年度には78%にする。
  - 生徒向け学校教育自己診断における「清掃が行き届いている」に対する肯定率（平成30年度59.5%）を2021年度には60%にする。
- (3)開かれた学校づくりの推進
  - ア 学校運営への一層の協力・理解を求め、保護者に対する情報提供の工夫を凝らす。保護者向け学校教育自己診断における「教育情報の提供」に対する満足度（平成30年度67.3%）を2021年度には75%にする。保護者向け学校教育自己診断における「本校HPをよく見る」に対する肯定率（平成30年度47%）を2021年度には50%にする。
  - イ 地域に信頼され誇りとされる学校をめざし、生徒と地域との交流を積極的に進め、地域とのつながりを強める。
  - ウ 中高連絡会の充実など、生徒が通う地域の中学校との連携を深める。

## 5 学校経営・運営体制の強化

- (1)普通科専門コース設置校とOJTとしての学校経営を推進し、円滑な学校運営とその機動力を高めるため組織力を強化し「チームみどり清朋」をつくる。
  - ア 運営委員会の活性化を図り、担当する分掌・学年のリーダーとして相互に連携・協力して、様々な課題を解決する計画の立案に携わる。
  - イ 教員間のOJTを機能させ、経験年数の少ない教員、ミドルリーダーの育成を図る。
  - ウ 「働き方改革」の推進のため、1階大職員室を有効利用し、職員間の迅速かつ正確な情報共有を図り、分掌・学年・教科相互の連携を強める。
- (2)教職員対象の本格的な実働防災訓練を昨年度に引き続き実施し、地域と協働する等、より内容を充実させ成果あるものにする。
- (3)支援を必要とする生徒への支援体制を充実し、家庭や地域との連携を深め、全ての生徒に対し、安心して安全な高校生活が保障できるように努める。
  - ア SC及びSSWを配置し、校内教育相談体制を充実させるとともに、外部公的機関との連携を深め、迅速かつ的確な支援を行い中退防止等に努める。保護者向け学校教育自己診断における「先生はさまざまな問題を見逃さずに対応」に対する肯定率（平成30年度68.9%）を2021年度には75%にする。
  - イ 個別の支援計画の策定・実施を分掌・学年・教科の協働により組織的に遂行する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【全般】 表中の( )は前年度比</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は生徒の肯定的回答率の上昇が際立った。全 28 問中 21 問で上昇、うち 7 項目については前年度を 5 ポイント以上大幅に上回る結果が得られ、3 年計画で立てた中期的目標値を 1 年で達成した。保護者については「わからない」回答が多い項目もあったが、全 27 問中 17 問で上昇、大きく下がった項目はなく良い結果が得られている。</li> </ul> <p>【学校満足度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の「本校に入学してよかった」は 82.3%(+0.9)、「学校に行くのが楽しい」は 80.5%(+3.8)、保護者の「子どもはみどり清朋高校に行くのを楽しみにしている」も 86.5%(+3.2)と昨年度より上昇し、高い水準が得られている。</li> <li>・3 年連続下がっていた生徒の「他校にない特色」は前年度比 59.7%(+5.0)と大きく回復し、「コースや授業は役立つ」も 76.9%(+5.1)と過去にない高い結果が得られた。生徒のおよそ 4 人に 1 人は専門コースへ進学し、改編 4 年を迎えた「普通科専門コース制」の教育内容が充実し定着してきたと言える。今後も生徒一人ひとりの「4 つのチカラ」の育成と進路を保障する教育をより丁寧に進めることが肝要で、その丁寧さが「他校にない特色」として評価されるよう努めたい。</li> </ul> <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の「進路に応じた選択科目がある」は 87.5%(+3.0)、「教え方に工夫し授業はわかりやすい」は生徒 73.6%(+3.0)、保護者 69.7%(+10.1)と大きく上昇した。「ICT 機器の活用」についての経年変化をみると、63.5% 76.4% 82.0% 85.0%と飛躍的に上昇、教員も 90.4%(+6.2)と高く、平成 29 年度全 HR 教室に ICT 機器を設置したことが契機になり、有効に活用する教員の創意工夫が教員間で浸透し成果を上げている。</li> <li>・また、「主体的・対話的で深い学び」を追求し、生徒が「考える」授業づくりが着実に進められている成果でもと分析する。一方で、生徒の「自分でまとめる・発表する」は 46.2%(+0.7)と停滞している。新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「思考力・判断力・表現力」の「表現力」の育成に重点をおいた教育を充実させる必要がある。</li> <li>・生徒の「家庭学習時間の確保」は毎年 2 年次での落ち込みが課題であったが、11 期生は 40.9% 45.2%(+4.3)と過去 5 年間で初めて増加した。1 年次も 46.4%(+5.5)と 50%に満たないが、前年度より多くの生徒に家庭学習習慣の定着が認められる。これは今年度「学力向上支援委員会」を立ち上げて、1、2 年生を対象に教育産業の基礎学力調査、年 2 回のスピーキングテストを含む実力診断テスト及び学習支援クラウドサービスを導入し、組織的に取り組んだ成果が表出している。今後少なくとも 3 年間はこの取り組みを継続し、常に検証しながら創意工夫を重ねて授業との関連付けを深め、より効果的な学習習慣の定着及び学力向上を実現する具体的方策の立案・実践を組織的に進めたい。</li> </ul> <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の指導は適切 74.3%(+2.2)、「生活規律や学習規律など基本的習慣の確立」70.0%(+5.0)と生徒は学校の指導を理解して自ら主体的に基本的習慣を確立させようと努めていることがわかる。遅刻数(4~12 月の累積)を見ると、昨年度の 1531 に対して今年度 1146(-25.1%)と驚くほど減少している事はその表れであろう。また、保護者の「指導方針に理解」74.3%(-1.1)、「指導に協力」76.4%(-0.9)は若干下がっているものの大きな変化ではなく、一定の肯定的回答を得られている状況が継続していると分析する。</li> <li>・生徒の「先生は生徒の意見をよく聞く」69.8%(+3.1)、「担任以外に相談できる先生がいる」59.0%(-1.1)は、普段の様子を見ていてクラス担任と生徒の距離が近くなった事を示していると考えられる。保護者は「保護者の相談に適切に応じる」75.7%(-0.3)、「生徒の相談に親身」69.0%(+0.1)と現状維持の評価である。</li> <li>・生徒の「進路実現に向けて適切な指導」79.8%(+3.9)、「奨学金について十分に説明」76.7%(+8.1)、「コースガイダンスは適切」79.7%(+2.8)といずれも大幅に上昇した。保護者も「進路情報提供は適切」77.8%(+4.4)、「進路指導が適切」77.3%(+2.9)と上昇した。担任や進路指導部等によるキャリアマネジメントが充実したことを示している。</li> <li>・生徒の「人権教育の推進」78.4(+6.3)、「命の大切さや規範意識を学ぶ」83.0%(+5.1)、「クラスやクラブは気軽に話せる集団」74.6%(+5.5)と大幅に上昇した。中期的目標に掲げている「生徒指導の充実」「ともに高め合う集団育成」「人権尊重の教育の充実」の全てにおいてとても良い結果が得られた。これは、個々の教員が生徒の内面に切り込み、また、学校全体が熱意をもって生徒と向き合ってきたことの成果であると言える。</li> <li>・生徒の「部活動に積極的に取り組んでいる」は 47.5%(-4.7)と減少している。部活動加入率 52.0%(-0.3)と伸びていないことが反映しているが、団体でこれまでにない良い成績を収める運動部や地域交流を深める文化部が 6 つ 7 つと現れた。部員は増えないが活動は活発になっている。</li> </ul> <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の特徴として学校行事(体育大会・文化祭・修学旅行など)への肯定的回答の上昇が挙げられる。生徒の「楽しい」74.6%(+9.3)、保護者の「楽しく工夫」86.5%(+6.1)といずれも大幅に向上した。生徒が主体的に取り組めるよう工夫した成果だと言える。</li> <li>・保護者の「進路情報の提供」77.8%(+4.4)や「教育情報の提供」72.8%(+6.1)が上昇しているのは、学年や進路指導部からの保護者向けメール配信回数を大幅に増やしたことの成果であろう。学校ホームページの更新も毎日学校の様子を「校長だより」で知らせるなど情報提供に努めている。これからも本校教育活動の情報提供に努めたい。</li> <li>・教職員の「校長の運営方針の明示」94.2%(+3.8)、「校長による学校経営の推進」82.7%(+7.7)の一方で、「組織間の連携」21.2%と極めて低いのが大きな課題である。これは教員定数の大幅削減の中、仕事の整理が進んでいないことが要因の一つになっている。来年度は 4 分掌組織とし、大職員室に 3 学年が集まって従事することが決定している。学級減に伴う教員定数削減が続く中、今こそ教職員集団が「ワンチーム」になる時である。</li> </ul>	<p>【第 1 回(6/20)】</p> <p>学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習を習慣づけ基礎学力の定着を図るために、教育産業の「高校生のための学びの基礎診断」認定ツールを積極的に導入したのは評価できる。一方で、「何故家庭学習ができないか」を考えた時、アルバイトの影響を考える。中には生活支援が必要な生徒もいるのではないかと。スクールソーシャルワーカーを配置して活用されているとのことであるが、アルバイトの実態把握と検証を行い、より必要とされる指導や支援の具体化に努められたい。</li> <li>・中河内地域の子どもたちは素直に一生懸命に取り組む特長がある。一方で、与えられたことには熱心に取り組むが、自己肯定感が低く、中学校を卒業した後、初めて経験するような新たな出会いの中で遅く生きていけるか気がかりな時もある。学校行事での成功体験や地域との交流活動を通して得られる達成感や自己肯定感を高めるのにとっても有効であろう。学力向上の礎になる自己肯定感の向上を促す取組みをぜひ続けられたい。</li> </ul> <p>生徒指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中河内地域全体の子どもたちが生徒指導面で落ち着いてきている。</li> <li>・遅刻も年々減少しているのは先生方の熱意が響いているのだと思う。</li> <li>・「主体的に考え行動する力」を養う教育を重点目標に掲げていることが社会に貢献できる人材を育成において重要、ぜひ継続して取り組まれたい。</li> </ul> <p>学校運営等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会事業への参加の推進を重点目標にあげてもらっているので、地域としても新たな試みの機会を増やすことができると考えている。</li> <li>・定量目標を達成できたかどうかは評価されているが、プロセスについての評価は十分にされているのか。肌理細やかな観察と丁寧な評価が望まれる。</li> <li>・SC や SSW は十分に予算配当されているのか。充実すべきである。</li> </ul> <p>【第 2 回(10/7)】</p> <p>授業見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒がどれだけ興味のある顔をしているかという着眼点で観察したが、情報の授業はとりわけ興味を持っているように見えた。</li> <li>・生徒たちが熱心に勉強している所はとても新鮮で感心した。しかし、教室や廊下のゴミが気になる箇所があった。清掃が行き届くようにしてもらいたい。</li> <li>・とても落ち着いた良い雰囲気で行われていた。</li> <li>・すべてのホームルーム教室に電子黒板が設置されていて効果的に活用している先生も多い様子であった。</li> </ul> <p>授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として良い結果が出ている。自由記述は何割程の生徒が書いているのか。</li> <li>・小学校や中学校では保護者からも授業アンケートを取っているが回収率が低く苦勞している。</li> </ul> <p>学習指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校では使用教科書を各学校で選定する機会があることが義務教育学校から見れば新鮮に感じる。高校では、生徒の実情に沿って適切な教科書を選定できることを大事にしてもらいたい。</li> <li>・「進路目標に基づき一人ひとりが安易な選択をしないように指導する」とは志を高く持たせ励ましながらか指導することと聞き大切だと感じた。来年度から共通テストが始まるので是非頑張ってもらいたい。</li> </ul> <p>生徒指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校でもスマホでの生活の乱れが問題になっている。ゲームに夢中になって昼夜逆転し、不登校になる事例も生起している。高校でもスマホや SNS に係る対人関係のトラブル等もあり、一筋縄ではいかないだろうが根気よく指導されたい。</li> </ul> <p>【第 3 回(2/3)】</p> <p>部活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この 1 年間、学校内外からみどり清朋高校の教育活動を見ると、圧倒的に学習指導に重心を置いて力を注いでいることである。学力向上のさらに上に部活動の活性化を掲げてもよいのではないかと。今年度はこれまでにない活躍を果たした部がいくつもあると聞くと、全体の加入率は 50%を超える程度であり、決して活発であるとは言えない状態が続いている。部活動の経験は社会に出てから遅く生きる力として大いに活かされる。「課題解決力の育成」に「部活動の充実」を掲げるならば学校としてもっと力を注ぐべきではないかと。</li> </ul> <p>生徒支援、進路保障について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現役大阪府立大学合格を果たすなど着実に学力向上の取組みの成果が出ていると評価できる。また、学力だけでなく生活支援を必要とする生徒が増えていると聞く。「働き方改革」が強く言われているなか、先生方も大変だろうが、引き続き SSW を活用する等、生徒一人ひとりを大切に手厚い教育をお願いしたい。</li> </ul> <p>地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この 2 年で地域との繋がりがかなり強くなった。さらに場を提供したい。「めざす学校像」及び「中期的目標」について</li> <li>・大きな目標も数年一度はブラッシュアップをすべきである。今年度の取組みの結果を分析し、社会の動向も見ながらどんな教育を進めるべきか、新たな目標を立ててさらに評判高いみどり清朋高校を作ってもらいたい。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)授業力向上 ア授業改善に組織的に取り組む イAL、ICT機器を活用した授業づくり  (2)進路実現の支援 ア学習習慣の確立 イ組織的な補習講習体制の確立 ウ進路指導力の向上と生徒の能力を引き出す指導の実践 (3)専門コース制の充実	(1)ア・研究授業推進月間、相互授業見学の実践 ・「観点別評価」等に係る実践及び評価の検証・分析 ・実習・体験学習の推進(校外も含む) ・授業力向上PTの活動の推進及び協力体制の確立 イ・「考える授業」、ICT機器等を取り入れた授業展開の開発・実践及び発表や説明の機会を増やす授業展開の実践 (2)ア・1年次教科別勉強法の徹底指導 ・教育産業を効果的に活用する学習支援体制の確立 ・授業の予習復習を習慣づける家庭学習の充実 イ・校内講習体制の組織化(進路指導部主導の講習) ・放課後、長期休業中の講習等の充実 ウ・担任の進路指導力向上に有効な情報交換会の実施 ・適時な進路情報の提供、目標設定の支援 ・大学見学会の実施等、外部説明会への参加、卒業生との懇談会による進路意識の向上 ・保護者向け進路説明会による肌理細やかな情報の提供 (3)・人文探究専門コースにおける新しい大学入試制度に対応した学力を保障する学習計画の構築及び実践 ・子ども保育専門コースにおける教科間連携の充実及び地域の保育園等との交流・連携の拡充	(1)ア・生徒向け学校教育自己診断における「入学満足度」を83%(平成30年度81.4%) ・授業アンケートの5つの授業評価軸平均3.20(平成30年度3.19) ・生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」72%(H30年度70.6%) イ・生徒向け学校教育自己診断における「ICT機器の活用」満足度を維持(同82.0%) (2)ア・生徒向け学校教育自己診断における「家庭学習時間の確保」肯定率47%(平成30年度44.3%) イ・生徒向け学校教育自己診断における「補習講習は十分行っている」満足度を維持(平成30年度76.4%) ウ・生徒向け学校教育自己診断における「進路指導満足度」を78%(平成30年度76%) ・保護者向け学校教育自己診断における進路情報提供満足度を78%(平成30年度74%) (3)・2020年度センター試験出願数50(平成30年度47人) ・「関西8私大等」現役合格者数20人以上	(1)ア・個々の教員の授業力向上への不断の努力の成果がみられる。次年度は研究授業を増やし、授業研究のための内発的な職員研修を行いたい。 「入学満足度」82.3%( ) 「授業はわかりやすい」73.6%( ) 授業アンケート5つの評価軸平均3.21( ) イ・ICT機器の活用」85.0%( ) (2)ア・教育産業を活用した学習支援体制を組織的に進めることができた。基礎学力調査でもその効果が明確に表れている。 「家庭学習時間の確保」45.6%( ) イ・早朝や放課後、休日の講習は増加した。「補習講習は十分に行っている」75.6%( ) ウ・「進路指導満足度」79.8%( ) 「進路情報提供満足度」77.8%( ) (3)・センター出願者44名に留まったが、創立12年で初の難関国立大学現役合格を果たす等、12月までに推薦入試で第一志望大学に合格する生徒が増えた。しかし一般入試では苦戦した。粘り強く指導する。「関西8私大等」現役合格者数20人(○)
2 コミュニケーション力の育成	(1)生徒指導の充実  (2)ともに高め合う集団育成  (3)人権尊重の教育に充実	(1)・全教職員が生徒指導課題を共有し、生徒の規範意識の向上にむけた組織的な実践 ・身だしなみや自転車マナーの講習会の開催 ・全教職員による授業規律、遅刻指導の徹底 (2)・生徒会行事における生徒の主体的な活動の保障・拡充 ・グループワーク等を導入した表現力、発信力の育成 (3)一人ひとりの違いを認め合い、安心して学び高め合うクラスづくりを意識した学級経営の実践 ・豊かな人権感覚を醸成する「総合的な探究の時間」のプログラム作成と実践、道徳教育の推進	(1)・生徒向け学校教育自己診断における「基本的習慣の確立」66.5%(平成30年度65.0%) ・遅刻者数前年比2%減(平成30年度1531) (2)・生徒向け学校教育自己診断における「人権教育の充実」73%(平成30年度72.1%) ・生徒向け学校教育自己診断における「クラス活動が活発」65%(平成30年度63.5%) (3)・生徒向け学校教育自己診断における「一人ひとりが尊重される」71%(平成30年度69.1%)	(1)・「基本的習慣の確立」70.0%( ) 「遅刻者数(4-12月)」1146( ) (2)・「人権教育の充実」78.4%( ) 「クラス活動が活発」68.4%( ) (3)・「一人ひとりが尊重される」74.6%( ) 上記5項目は全て関連している。一人ひとりを大切に、しっかり向き合い厳しく温かい指導を粘り強く行ってきた教員集団の熱意が伝わった。次年度はSDGsに係る探究活動を充実し、思考力・判断力・表現力・発信力の育成に努めたい。
3 課題解決力の育成	(1)主体的・対話的で深い学びの実践 (2)部活動の充実	(1)自分の考えをまとめて発表する学びの充実 ・論理的思考力・判断力・表現力の育成 ・読書活動を啓発する図書館を活用した教育の推進 (2)・クラブ間交流の企画運営 ・外部指導者の活用 ・学校説明会等での中学生の部活動見学実施 ・ホームページによる活動報告等の随時発信	(1)・生徒向け学校教育自己診断における「まとめて発表」47%(平成30年度45.5%) (2)・部活動加入率54%(平成30年度52.3%) ・ホームページアクセス数を維持	(1)・「まとめて発表」46.2%( ) (2)・部活動加入率52.0%に留まっているが、硬式野球部、硬式テニス部、バスケットボール部、バレーボール部で今までにない高い成績を収めた。またラグビー部では西日本代表として東西対抗戦に出場した。引き続き活性化に努める。(○) ・ホームページは平成29年度から毎日更新(4/1~3/16の部活動に関する更新回数247回)それに伴いアクセスは急増し維持している。(○)
4 地域貢献力の育成	(1)地域と連携した教育活動の展開 (2)防災意識の啓発 (3)開かれた学校づくりの推進 アタイムリーな保護者への情報提供 イ中学校等への広報活動	(1)ア・地域の学校や福祉施設などとの連携推進 ・小学校・中学校への出前授業、保育園等での生徒の実習体験、自治会事業への参加の推進 ・部活動での小・中学生との交流 ・学校周辺の美化活動の推進 (2)実働防災訓練の実施とリアルな防災避難訓練の企画 (3)ア・ホームページの活用 ・保護者対象の授業見学会実施 ・保護者向け講演会開催と個人面談の充実 ・学校行事におけるPTAとの一層の連携 イ・生徒が活躍する学校説明会を開催(年2回) ・地域に根ざした中高連携の内容充実 ・出張模擬授業の実施、中学生への授業公開	(1)ア・地域連携指数(対象数×回数)の増加 ・生徒向け学校教育自己診断「学校の美化環境」に対する肯定率維持(平成30年度59.5%) (2)・教職員による実働防災訓練の実施 ・生徒向け学校教育自己診断における「命を大切にす心の醸成」に対する肯定率を維持(平成30年度77.9%) (3)・保護者向け学校教育自己診断における「教育情報の提供」を満足度70%(平成30年度67.3%) 「本校HPをよく見る」を50%(同47%)	(1)ア・「地域連携指数780(+440:229%増)( ) 「学校の美化環境」58.4%( ) 次年度は学校美化を重点課題にして取り組む。 (2)防災アドバイザー派遣事業に参画し、地域を巻き込んだ「第2回職員実働防災訓練」を8月実施し、その成果を発信した。次年度難易度を上げる。( ) 「命を大切にす心の醸成」83.0%( ) (3)・授業や学校行事、部活動等の生徒の学校生活の様子を「校長だより」等で毎日発信した。年間更新1100回超。次年度も積極的に発信する。また、学習支援クラウドサービスの活用を工夫する。 「教育情報の提供」77.8( ) 「HPをよく見る」47.2%( )
5 学校運営体制の強化	(1)新しい学校づくりを進める 運営体制の強化	(1)全教職員が一丸となって、教育目標達成に向けて協力し 支え合い実践する組織づくり ・経験年数の少ない教員が安心して職務に専念できるOJTの充実とミドルリーダーの育成 ・分掌、学年、教科、事務室が有機的に結びつき、より機能的合理的に職務を遂行できる職員集団の形成し、校務の多重化を解消することにより、「働き方改革」を推進し、時間外超過勤務を削減する。 ・SSW配置を継続し、支援体制を充実する。	(1)生徒向け学校教育自己診断における「先生はお互いに協力し指導にあたっている」を58%(平成30年度55.7%) ・教職員向け学校教育自己診断における「教員間で授業方法等について検討する機会」に対する肯定率55%(平成30年度45.1%) 「学年・分掌・委員会等の組織間の連携」肯定率50%(平成30年度35.3%) ・教員の時間外超過勤務時間の月平均値を前年度比0.5時間減 ・「教育相談体制の整備」肯定率維持(74.5%)	(1)・「先生は互いに協力して指導」60.3%( ) ・「授業方法等の検討する機会」32.7% 教科単位で集まる時間確保が容易でなかったが、新学習指導要領への検討は順調に進んだ。( ) ・「組織間の連携」21.2%( ) ・時間外超過勤務時間月平均(0.3時間増)( ) 次年度より分掌組織改編を決定。学年職員室の機能を大職員室に集結し、機能的な教職員の協働体制を構築。「働き方改革」につなげる準備を整えた。 ・相談室を毎日昼休みに開けることができた。「教育相談体制の整備」73.1%(○)